

もみじ

Vol. 9

2006.8
August



県立広島病院

〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
TEL (082) 254-1818 (代) FAX (082) 253-8274
ホームページ <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>

(財)日本医療機能評価機構認定病院 認定第JC175号一般病院



理念 県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

基本方針

1. 患者様の権利を尊重し、真心のこもった医療を実践します。
2. 医療事故ゼロを目標として、患者様の安全対策に努めます。
3. 県の基幹病院として、21世紀の高度・先進医療を推進します。
4. 各医療機関と連携を強め、地域医療の充実向上に貢献します。
5. 健全な病院運営に努め、良質な医療サービスを提供します。

県立広島病院はがん医療を充実します

～この度、がん診療連携拠点病院として、国の指定を受けました～

わが国では毎年60万を超える人ががんにかかり、32万余の人ががんで亡くなっており、この数は、高齢化社会が進むに伴いさらに増加することが予想されるなど、今やがんは「国民病」となっています。そのため国を挙げたがん対策が進められています。

がんを引き起こす原因として、遺伝子異常、生活習慣、感染症などが知られていますが、一部のがんは日常生活の見直しによって予防可能で、国立がんセンターでは「がんを防ぐための12カ条」を発表しています。

予防と並んで大切なのは早期発見・早期治療です。早期発見には「定期的な検診」



病院長 大濱 弘三

が最も効果的で、自覚症状の有無を問わず毎年または隔年の受診が望まれます。最近では、検診の精度（がんの発見率）も高まり、また苦痛を伴わない検査法が開発されています。早期がんであれば完全治癒が期待できますので、積極的に受診していただきたいと思えます。

がん治療の基本は、手術療法、化学療法、放射線療法で、その他にホルモン療法、遺伝子療法、免疫療法、温熱療法などが試みられています。これら



▲平成18年7月20日 臨床腫瘍科開設式

の中からどれを選択するか、また、どの治療法を組み合わせるかは、がんの種類（臓器、組織、細胞の種類）や進行度、患者様の年齢や体力、症状、希望などを総合的に判断して決定されます。

手術療法は、がん細胞（組織）を切除して体外に取り出すことを目的に実施されますので、完全除去のためには、がんの広がりがある範囲に限られていることが条件となり、一般的には早期のがんが適応になります。しかし、それ以外にも、体内のがん組織の量を減少させる目的や、症状の軽減、生理機能の改善などを

目的として実施されることもあります。

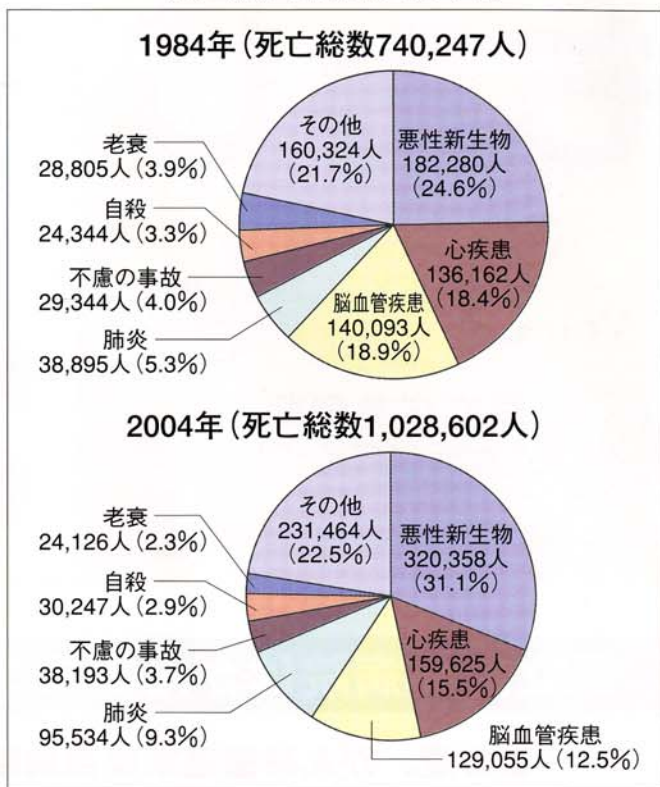
放射線療法は、がん細胞に強力なX線やγ線を照射して死滅させることを目的に実施されます。一般に、がん細胞は正常細胞に比べて放射線に対する感受性が高い(放射線によって死滅しやすい)性質を利用した治療法で、その性質の強いがん(臓器、組織、細胞の種類)が適応になります。また副作用軽減のために、照射範囲を必要最小限にする必要があることから、限局的な治療法になります。放射線療法には外部照射法と腔内照射法があり、両者を組み合わせて実施することもあります。当院では、外部照射機器として本年5月に最新鋭のリニアック装置を設置し、腔内照射機器については平成17年8月に前立腺癌密封小線源治療システム装置を新設するなど、放射線療法機器の整備を図っています。

化学療法は、抗がん剤投与(注射、内服)により体内のがん細胞を死滅させる治療法ですが、がんの種類によって抗がん剤に対する感受性が異なりますので、患者様ごとに薬剤の種類や量、さらにはそれらの組合せを決定します。抗がん剤には代謝拮抗剤、細胞分裂阻害剤、DNA合成阻害剤、蛋白合成阻害剤、抗生物質など多様なものがあり、さらに新たな抗がん剤が次々と開発されていますので、その重要性はますます高まると考えられています。しかし、抗がん剤は正常細胞にも大きな障害を与えますので、慎重かつ適切に使いこなす必要があり、最新の知識と技術を具えた医師が担当することが望まれます。そのため当院では、本年7月にがん化学療法に精通した医師による臨床腫瘍科を開設し、さらに専任の看護師や薬剤師を配置するなど、これまでも増して安全で高度な化学療法を提供する体制を整えました。これには国立がんセンター中央病院の全面的な支援を受けました。さらに今回、院内のがん相談体制やがん登録体制も整備しました。

しかし、最新の治療にもかかわらず、がんの進行を止めることができず、身体的・精神的苦痛を余儀なくされることも少なくありません。そのため当院では、平成16年9月に緩和ケア支援センター(緩和ケア病棟、緩和ケア支援室)を開設して対応していますが、この施設は全国的にも高く評価されています。緩和ケアの基本方針は、患者様が持つ痛みや不安を和らげ、心身ともに穏やかな状態で残された生活を送っていただくことにあります。

これからも、がん医療は日進月歩の状況が続くと思われませんが、私ども職員一同は、県民の皆様様に信頼され、高く評価される「がん診療連携拠点病院」として、日夜努力してまいります。

死亡原因の推移(全国)



▲出典:厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態調査」(注)「その他」は死因不明等を含む。

がんを防ぐための12か条

- ① 偏食しないでバランスのとれた栄養をとる
- ② なるべく同じ食品を繰り返して食べない
- ③ 食べ過ぎを避け脂肪をひかえめにする
- ④ お酒はほどほどに
- ⑤ たばこを少なくする
- ⑥ 適量のビタミンと繊維質のものをしっかりとる
- ⑦ 塩辛いものは少なめに、余り熱いものはさましてから
- ⑧ ひどく焦げた部分はさける
- ⑨ かびの生えたものに注意する
- ⑩ 日光に当たりすぎない
- ⑪ 過労を避け適度にスポーツをする
- ⑫ 体を清潔にする

臨床腫瘍科の開設 ～県内初のがん化学療法専門診療科

がん患者の皆様が通院しながら、より良い環境のもとで、安全に、かつ安心して、化学療法（抗がん剤治療）を受けられる診療科です。

がん化学療法（抗がん剤治療）は、新たな抗がん剤の開発により改善されてきたとはいえ、つらい治療であることには変わりありません。そのため、平成18年7月21日に開設した臨床腫瘍科（南棟3階）では、専任の医師2名、薬剤師2名、看護師2名を配置するとともに、電動式リクライニングチェア12台を設置し、静かに快適に点滴治療を受けていただく環境を整えました。がん化学療法専門の診療科は、県内では初めてです。



▲化学療法室

また、無菌調剤機器を設置した専用調剤室を同フロア内に整備し、抗がん剤の無菌調製を行うとともに、安全性に万全を期すため、コンピュータシステムを構築し、厳重なチェック体制をつくりました。

治療にあたっては、臨床腫瘍科専任医師と各診療科の主治医が連携し、最適な治療法を選択します。また、患者様と一緒に考え、納得のいく治療が行えるよう、抗がん剤やがん治療の正しい情報を、DVD・書籍等を通じて提供するとともに、誰でもがん化学療法に関する相談が気軽にできる「がん化学療法相談室」（要予約）を設置しました。

また、臨床腫瘍科では緩和ケア支援センターとも連携をとりながら、終末期までを視野に入れたトータルケアにより、患者様やご家族のQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）を大切に治療を提供していきます。

さらに、国立がんセンター中央病院と連携を取り、同センターのご支援をいただきながら、最新のがん治療を提供していきます。



▲国立がんセンター中央病院とのがん診療に係る覚書調印式



▲臨床腫瘍科のスタッフ

臨床腫瘍科のモットー

- 患者様にとって最適ながん化学療法を、より良い環境で提供します。
- スタッフは、患者様、ご家族と一緒に、より良いがん治療を考えます。
- 県民の皆様役に役立つ最新のがん治療情報をお届けします。

初診で臨床腫瘍科を受診される場合は、他の病院や診療所からの紹介状をご持参ください。

